

1 審議会名	第30回上田市都市計画審議会
2 日時	令和6年10月29日(火) 午後1時30分から午後3時30分まで
3 会場	上田駅前ビルパレオ 2階会議室
4 出席者	高木会長、池田副会長、井澤委員、中村委員、宮下(勝)委員、高野委員、 宮下(正)委員、鎌田様(代理)、森泉様(代理)、中山委員、計10名
5 市側出席者	
●都市建設部	佐藤部長
【都市計画課】	細谷課長、児玉課長補佐兼調査計画担当係長、乾調査計画担当係長、 久保田公園緑化景観担当係長、竹内主査、清水主査、飯澤主事
●上田建設事務所 整備課	阿部課長補佐
6 その他出席者	上田地域振興局地域振興課 荻原担当係長
7 公開・非公開	☒ 公開 ・ ☐ 一部公開 ・ ☐ 非公開
8 傍聴者	0人 記者 2人
協議事項等	
1 開会(挨拶:佐藤都市建設部長)	
2 議事(進行:高木会長)	
(1) 議事録署名人の選出	・井澤委員、中村委員を指名
(2) 議案審議	
【調査審議第1号】	
上田都市計画道路(諏訪部伊勢山線)の変更について(長野県決定)	
・資料に沿い、上田建設事務所整備課阿部課長補佐から説明	
(委員) 旧上田市と旧真田町の堺で都市計画決定が切れているが、それから先の計画はあるか。 また、上信自動車道との関係はどうなっているか。	
(事務局) 道路改良事業としては河川を渡る橋については4車線で計画を進める。その先の県道の交差点 についてまでは交通安全上も整備する必要があると考えている。 今のところ上信自動車道との関係は明確になっていない。一方で上信自動車道も群馬県側から 整備が進んでおり、長野県側からも整備が進んでいることから、調査の段階がステップアップ したところで関係性を明らかにしていきたい。	
(委員) 計画道路周辺に道路に囲まれて残ってしまう民家、新屋堰の水門管理する場所へつながっている 道、堀越用水、高堰がある。今後の設計の中で十分に配慮してほしい。	
(事務局) 今後の詳細設計の中で、十分に地元の意見も聞きながら、配慮して行っていく。	
(会長) 自転車に乗る立場から言うと、自歩道は自転車と歩行者の間で事故が起こりうる。今後は自転 車が安全に速く走れる、そして歩行者との間で事故が起こらない道路を作してほしい。	
(委員) 近隣の神科小学校の前には既存の道路が地元要望により残っていると聞いている。基本路線に	

出る際に自歩道に出るため、車両が自歩道を止める形になり、危険。また、自歩道を近道のように使う車両もいると聞いた。その点も今後配慮してほしい。

(事務局) バイパスに並行する現道からの車両の安全対策については、交通管理者と相談のうえ、しかるべき対策を考えていきたい。

審議結果

特段の意見なし

3 その他

(1) 上田市総合計画について

・資料に沿い、都市計画課児玉補佐から説明

(委員) 施策 20「街路樹の緑化機能を保全しながら都市緑化の充実を図る」について、鳥が大量に来てしまうという問題があるため、今後検討してほしい。また、大きくなりすぎてしまい倒木してしまうという事例もある。また、夜間上田駅周辺にカラスが大量にいる状態もあり、せっかく事業を進めてもうまくいかなくなることもあるので、配慮してほしい。

(事務局) 駅前にはムクドリが来ており、歩道の樹種を変更したことで、歩道上からはなくなった。一方で音を出して追い払う等の対応をするとムクドリが民家に行ってしまうということもあり、今後は木の選定を早めに行うなどの対応をしていきたい。

中野市や東京で木が倒れる事件があり、当課でも点検を行った。日々点検を行っていききたい。カラスについてはムクドリよりも対策が難しく、今後城跡公園については城跡公園の整備の中で対応していきたい。

(委員) 施策 8 の市民の花づくりについて「市民の花づくりを促進し」とあるが、来年からは花苗、肥料は各自購入、申請が通ればお金がもらえるというように変わると聞いている。手続きが複雑になるならば花壇づくりはやめるという話も出てきている。こういった計画を策定するならば入り口を狭くするようなことなく、それに合った施策を展開する必要がある。

また、施策 23 について、遊具の安全利用や芝生の管理、更新についても配慮してほしい。

(事務局) 花の苗については、アンケートを取るなど検討したが、来年も例年通り行わせていただく。今後縮小するというのではなく、多様な要望にも対応できるよう検討していく。

公園の遊具についてはある程度落ち着き、施設のフェンスや擁壁、ベンチ等の整備に移行してきている。芝生については計画の項目にはないため維持管理の範疇となるが、今後検討していきたい。

(委員) 近年の頻発する自然災害から、市民の安心安全を優先して計画を立てていく必要があると考えている。上田市の立地適正化計画では千曲川の浸水想定が深く一番危険な区域を居住誘導区域に指定している。能登で発生したような災害がいつ上田市で発生してもおかしくない状況であるため、上田市も様々な計画の中にもっと防災の意識を掲げてまちづくりを進めていってほしい。

(事務局) まちづくりには防災面は非常に大事だと考えている。立地適正化計画においては国の指導もあり、防災指針を定めて改定した。防災についてはその他の計画も含めて総合的に考えていきたい。

(委員) 都市計画として大きな問題となっているのは防災についてと中心市街地の空洞化などがあるが、総合計画は 10 年スパンで考えるため、2035 年の段階で上田市がどうなっているかという視点を第 3 次総合計画に入れると、総合計画も立地適正化計画も踏み込んだことができるようになるかもしれない。

(事務局) 総合的な視野を持っていただいた意見を盛り込んでいきたい。また、マスタープランやその他

の各課の計画においても具体的なものが出てくる。また、防災についてはどの分野でも大きく力を注いでいる分野となっている。

また、報告できる段階になったところで報告する。

(2) 上田城城下町エリアビジョンについて

・資料に沿い、都市計画課児玉補佐から説明

(委員) 中心市街地は非常に渋滞しているため、車をどこかに止めて公共交通機関を利用して移動できるようなシステムを作らないとイベントに参加しにくいいため、対策があったほうが良い。また、別所線駅や大屋駅の周りなどに駐車場を作るなどして、市街地のイベントが渋滞しないような対策があってもいいのではないか。

(事務局) 協定を締結した上田ビジョン研究会との協議の中でも、公共交通との連携が重要だということを書いており、バス、鉄道、シェアサイクルと連携できるように進めていく。

(委員) 駅前マルシェに出店した事業者にとって、参加してよかったと言える状況だったのか。

(事務局) キッチンカーの出店については商工会議所による募集であったため、直接聞いたわけではないが、7月のマルシェにおいては天候やイベントのタイミング等の影響もあり、売り上げはそこまで伸びなかったと聞いている。10月のマルシェにおいては売り上げが伸びたと聞いている。

(委員) 近隣の商店等から苦情等はなかったか。

(事務局) 今のところそういった声はない。

(委員) 上田駅周辺の活動は、こういった活動を続けていけば、広場の改造やステージを作るなども考えられ、将来に向けて活動していったほしい。

また、市街地は小松姫の墓や丸山邸など見てもらいたいエリアがたくさんあるため、そういった場所も考慮して進めていったほしい。

(事務局) 駅前には人がたくさんいるが、広場が気付きにくいいため人を誘導できていないのが現状であり、それをどう誘導するのが課題である。最終的には改修できればと考えている。

また、以前小松姫の墓や丸山邸は歴史の散歩道として市で改修しており、シェアサイクルのGPSを確認すると多く人が訪れている。そういったデータも確認しながら、エリアビジョンを進めていく。

4 閉 会 (挨拶：佐藤都市建設部長)